

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

| | | |
|--------|-----------------|------------|
| 駅家中学校区 | 校番 61 | 福山市立駅家西小学校 |
| 最終更新日 | 2024年(令和6年)2月1日 | |

I 福山市

| | |
|-------|--|
| ミッション | 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 |
| ビジョン | 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。 |

II 中学校区

| | | | |
|--|---|---|--|
| 前年度学校関係者評価の主な内容 ○コロナ禍で工夫しながら小・中で明確な目標を定め、細やかな取組をされている。 ○福山市の産業についてしっかり学び、「地元に戻ってくる」人材を育成してほしい。 | 児童生徒の現状 ○コロナ禍の生活によって、体力の低下が目立っている。 ○自己肯定感を高め、意欲的に活動できる集団づくりが進んでいる。 ○授業が面白いと感じ意欲的に取り組む児童生徒は増えているが、学力が定着していない。 | 育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等 | 〈中学校〉思考力 コミュニケーション力・協調性 意志決定力・志 〈小学校〉課題発見・解決力 コミュニケーション力 挑戦する力 ○日常生活の中に課題を見つけ出し、自分の知識を総動員して答えを導き出す。 ○他者との関係を強制的に築きながら、自分の考えを発信し、仲間と課題解決する。 ○自分の人生を切り開き豊かな未来を創ろうと見通しや展望を持ち自己決定する。 ○「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 ・学力調査の分析から課題をつかみ具体的な手立てを研究し、授業改善を進める。 ・各種アンケート等による結果から、個別最適化を図り、子どもに「自己決定」の場を多く与える。 |
|--|---|---|--|

III 自校

| |
|--|
| ミッション 希望ある未来、駅家・福山の担い手となる「生きる力」の育成 |
| 学校教育目標 確かな学力と豊かな感性に培い、仲間とともにやりぬく子どもの育成 |
| 現状 〈児童生徒〉 ○「どんな勉強でも一生懸命挑戦している。」肯定的評価…93.7% (全校児童) ○様々な表現方法を認めることで、自分の考えを表現しようとする児童が増えつつある。 ▲自分の思いを言葉や文章で表現することが難しい児童がいる。 ▲教科に対する苦手意識が強く、取り組む前から諦めてしまう児童がいる。 〈授業〉 ○児童同士の関わり合いが持てるよう、場の設定や表現の仕方を工夫することで、自分の意見や自分の考えに自信が持てるようにした。 ○問題との出会わせ方を工夫したり、個に応じた課題やめあてを設定したりして、学級全体で達成感が味わえるようにした。 ▲授業の展開部分での関わりが不十分であったため、「全員参加」の授業とはならず、一部の児童で授業が進んでしまうことがあった。 ▲児童がどこでどんなことに難しさを感じるかなどの教材研究が不足し、児童の反応に柔軟に対応することができなかった。 |

| 育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) | 課題発見・解決力 | コミュニケーション力 | 挑戦する力 |
|---------------------------|---|--|---|
| めざす子ども像 | 低学年 ○身近な問題に対して疑問を持ち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力 | ○自分の役割に責任を持つ力 ○自分の考えを伝える力 | ○学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力 |
| | 中学年 ○地域や社会の問題に対して、持っている知識を関連付けて考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力 | ○自分の役割や言動に責任を持ったり、助け合ったりする力 ○自分の考えを伝え、相手の考えを比較してしながら聴く力 | ○学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだり難しいことにもチャレンジしたりする力 |
| | 高学年 ○様々な問題に対して、持っている知識や経験等をフル活用して考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力 | ○自分の役割や言動に責任を持ち、共感的に聴きながらアイデアや知識を共有し深める力 | ○地域・社会の一員であることを自覚し、持続可能な社会に向け、主体的に学んだり困難に立ち向かったりする力 |
| 研究 | テーマ 「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」 ～㊦らんでみよう! ㊧いてみよう! ㊨ってみよう! しんじあう友㊩ はっ㊪んしよう!～ | | |
| | 内容等 全員参加の授業づくりに向けての教材研究 | | |
| めざす授業の姿 | 全員が学びに向かう授業 子ども達が自分の考えを持ち、自分なりの方法で表現している授業 | | |

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家西小学校

| 年 目 | 中期経営目標 | 重 点 | 分 類 | 短期経営目標 | 目標達成に 向けた取組 | 評価指標 | 中間評価(10月1日) | | | | 最終評価(2月末) | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|-------------|--|--|--|---|------------|----------|--|--|------------|----------|----------|--|
| | | | | | | | □指標に係る 取組状況 | 7/25 評価 | 達成 評価 | 改善方策 | □指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況 | 7/25 評価 | 達成 評価 | 総合 評価 | 改善方策 |
| 1 | 主体的で対話 的な学びを通 じた学力の定 着 | ★ | 見 直 し | 児童が主体的に 学びに向かい、 粘り強く学び続 ける授業づくり | 子ども達が自 分の考えを持 ち、自分なり の方法で表現 できるような 授業展開をす る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケ ート「自分の考えを みんなに伝えて います。」 肯定的評価 85%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自 分の考えをみんなに伝 えています。」 肯定的評価 85.2% (達成率 100.2%) □ペアやグループで話 す場面を作ったり自分 の考えがもてるような 授業時間を工夫した。 □個人の結果を見ると、基 礎的基本的な学力が身につ いていない児童や自己肯定 感が低い児童の評価が低い ことが分かった。 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・「聞き方名人・ 話し方名人」など の掲示物をもとに 達成目標を共有 し、自己肯定感の 向上につなげる。 ・子どもの意見 を活かした授業を展 開していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分 の考えをみんなに伝えて います。」 肯定的評価 82.4% (達成率 96.9%) □役割を決めるなど、表現し なければならぬ場を設定す るような授業時間を工夫したり 掲示物をもとに達成目標を 共有したりした。 □基礎的・基本的な学力の定着 を図るため、導入時にどの学年 でも復習の時間を設けたり、授 業の中に児童が学び方を選択で きるような時間を設定したりし た。 ・学期に1回以上互いの授 業を見合い、授業改善を行っ た。(達成率 100%) | 3 | 3 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの際に役 割を決めるなどし、 全員が参加できる 工夫をする。また、 話し合いの仕方が 分からない児童も いるので、マニュアル を作成していく。 ・引き続き、学力の定 着を図るために、ど の学級でも授業の 導入時に復習など を取り入れていく。 ・「自己選択」「目的 意識」「繰り返す」「協 働」「表現する」の 5つの視点がある かどうかを意識し ながら教材研究に あたる。 |
| 1 | 児童がいきい きと学べる学 校づくり | | 見 直 し | 児童の自己肯定 感の高揚 | 振り返りカー ドを活用し、で きていること を可視化する。 (毎月) | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート 「自分には良いと ころがある」 肯定的評価85%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分 には良いところがある」 肯定的評価 77.0% (達成率 90.6%) □できたことを可視化 することができ、「で きた」というメタ認知 につながった。 □評価が低い児童につ いては、自分の長所を 見つけられていない児 童が多かった。 | 3 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人の状態に合 わせた課題を設定 することで、達成 感をもてるように する。 ・定期的に児童の よい行いや頑張 り、担当が感じた 児童の成長を伝え ていき、自分のよ さに気付くことが できるようにす る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分 には良いところがある」 肯定的評価 82.1% (達成率 96.6%) □いいところ見つけなど、相 互評価する場を設定すること で、認め合う雰囲気づくりが でき、自分のよさに気づかせ ることができた。 □個人の結果を見ると、自分 の長所を見つけられていな い児童や自己肯定感が低い が多かった。 ・毎月の振り返りカードで 1つ以上チェックが付い た児童 100% (達成率 117%) | 3 | 3 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の振り返り カードを実施し、 保護者からも児童 に対しての頑張り を評価してもら い、学校と家庭で 肯定的な声掛けを 行っていく。 ・自己肯定感が低 い児童について は、担当が把握し、 自分のよさを自覚 できるような声掛 けを行っていく。 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------------------|-----|----------------------------------|--------------------------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 見直し | 体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体づくりに取り組む態度の育成 | 体づくりカードやサーキット、体育館遊び、レクリエーションなどを活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・反復横跳びの記録が前学期よりも伸びている。または、県平均を超えている児童が85%以上 ・児童アンケート「体を動かすことが楽しい」 肯定的評価85%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・反復横跳びの記録が前学期よりも伸びた児童 89.5% (達成率 105.2%) □活動の中に遊びの要素や、友達と協力する場面を意図的に取り入れた。 ・児童アンケート「体を動かすことが楽しい」 肯定的評価 89.5% (達成率 105.2%) □運動に苦手意識のある児童への取組が不十分であった。 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・遊び要素のある体の動きを高める活動を導入に取り入れる。 ・体育科の単元につながる動きのポイント動画を紹介するなど、児童が個別に予習・復習できるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・反復横跳びの記録が前学期よりも伸びている。または、県平均を超えている児童77.6% (達成率91.3%) ・児童アンケート「体を動かすことが楽しい」 肯定的評価 85.8% (達成率 100.9%) □記録を取る際に、各クラスの最高記録やどこまで達成したらよいかを具体的に提示することで、目標をもって取り組むことができた。 | 3 | 3 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育委員会の運動遊びで、記録測定とすばやさにつながる動きを取り入れた遊びを異学年で行う。また、その最高記録の掲示を継続して行うことで目標をもって取り組むことができるようにする。 |
| 1 | 保護者・地域に信頼される学校づくり | 見直し | 地域の人材と協働した学校づくり | 地域の人材を生かしたカリキュラムマネジメントを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子どもを駅家西小学校に通わせてよかったと思う」 肯定的評価95%以上 ・各学年、年間2回以上は地域の人材を生かした授業をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子どもを駅家西小学校に通わせてよかったと思う。」 肯定的評価 96.4% (達成率 101.5%) ・各学年の地域の人材を活用した授業回数 1年 2回 2年 3回 3年 7回 4年 3回 5年 5回 6年 8回 学校平均 4.6回 (達成率 233%) □地域人材を活用したこと等を記載した通信の発行はできているが、各学年のホームページの更新ができていないことがある。 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・通信の発行やホームページの更新について、月末に進捗状況を確認していく。 ・地域や外部人材を活用したことを知らせる通信等の内容を工夫する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子どもを駅家西小学校に通わせてよかったと思う。」 肯定的評価 95.9% (達成率 100.9%) □否定的な意見の結果を見ると、「学校は安心して過ごせる場になっていますか。」というアンケート項目の数値も低くなっている。 ・各学年の地域の人材を活用した授業回数 1年 3回 2年 3回 3年 7回 4年 4回 5年 7回 6年 11回 学校平均 5.8回 (達成率 344.8%) □校外学習や地域の方を外部講師として招き、授業を行うなど、地域(外部)人材を活用したカリキュラムマネジメントが出来てきた。 | 4 | 4 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校が児童や保護者にとって安心して過ごせる場であるために、教育活動を通して子ども達の成長を保護者に伝えていく。トラブルが起きた際には「報・連・相」を徹底していき、早期対応を行っていく。 ・リキュラムマップを整理しながら、地域(外部)人材を活用できる場所がないか確認しながら、教材研究やカリキュラムマネジメントを進めていく。 |
| 1 | 教職員が元気で、児童に向き合える学校づくり | 見直し | 授業づくりのための時間の確保 | 月に2回、学年会を設定し、主体的な学びに向けた教職員の交流を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート「授業づくりのための時間が確保できている。」 肯定的評価85%以上 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート「授業づくりのための時間が確保できている。」肯定的評価 68.0% (達成率 80%) □学年会の時間を設定することで、職員同士が教科や | 3 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・「教材研究・授業専用のクラスルーム」を作成し、他学年の教材研究や授業実践を簡単に共有できるようにし、学びあいが進 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員アンケート「授業づくりのための時間が確保できている」 肯定的評価 51.0% (達成率 60%) □学年会の時間や2回の授業づくり研修の時間を設定する | 3 | 3 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・SSSと連携し単純な入力作業の依頼等を行い、引き続き業務軽減を図っていく。 ・見直しをもって業務を進めること |

| | | | | | | | | | | |
|----|--|--|--|--|---|---------|---|--|--|--|
| くり | | | | | 児童について話をする機会が増えた。 □他学年の教材研究の内容や授業での実践の学びあいの中々できていない。 | むようにする。 | ことで、職員同士が教科や児童について話をする機会が増えた。 ロテストの点数入力、会計整理、校務分掌、児童・保護者対応など、学校でしかできないことが多いため、自宅でもできる授業準備等が後回しになってしまう。 | | | ができるように、 ×切があるものについてはホワイトボード等に掲示して、業務の優先順位を立てやすくしていく。 |
|----|--|--|--|--|---|---------|---|--|--|--|

| [プロセス評価の評価基準] | | [達成評価の評価基準] | | [総合評価の評価基準] | | |
|---------------|--|-------------|------------------------|-------------|-----------------|-----------------|
| 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | 評点 | 評価基準 | |
| 5 | 取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。 | 5 | 目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。 | 5 | 100%以上の達成度 | 十分に目標を達成できた。 |
| 4 | 取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。 | 4 | 目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。 | 4 | 80%以上100%未満の達成度 | 概ね目標を達成できた。 |
| 3 | 取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。 | 3 | 目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。 | 3 | 60%以上80%未満の達成度 | ある程度目標を達成できた。 |
| 2 | 取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。 | 2 | 目標を下回り、成果よりも課題が多かった。 | 2 | 40%以上60%未満の達成度 | あまり目標を達成できなかった。 |
| 1 | 取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。 | 1 | 目標を大きく下回り、成果が認められなかった。 | 1 | 40%未満の達成度 | 目標を達成できなかった。 |